

## 【高校生】子供が大切にしていることを、大切にする ～「キャラ替え」してまでもチャレンジしようとする子供を見守る～

---

子供が学校や友人たちと過ごす社会の中で、自分の性格や性質、振る舞いの特徴などを、キャラクターを略して「キャラ」と言うことがあります。明るい、元気、物静か、まじめ、など、特徴的な「キャラ」を自分のイメージとして他人とのコミュニケーションをとる、子供たちの中ではよく使われる言葉です。

中学時代、学校で「真面目」とか「親の言いなり」などのイメージを持たれていたり、自分で自分を「地味」「はっきり主張できない」などのマイナスの自己イメージを持っていた子供が、高校進学をきっかけにして「今までの自分を知らない人たちと過ごすことになるのだから、違う自分になりたい」と、高校時代にキャラ替えを試みる子供がいます。

入学した学校の雰囲気になじめないとまずいと思って変わろうとする子供もいれば、「プラスの自己イメージをもちたい」という必死な思いを抱く子供もいて、キャラ替えは、ある意味で、子供にとってのチャレンジであり、親離れの一つでもあります。

「私は冒険できる」とか、「親に注意されたってどうってことない」などの強そうなキャラを選んだ、こんなケースもありました。おとなしく、勉強熱心だと思われていた子が、急に髪を染めて夜中まで遊んで帰ってこないとか、親の見ていない範囲では決して勉強しないとか、オンラインゲームに夢中になるなど、今まで問題なく育ってきた子供の変わり具合は、親としてはもう本当に見ていられない事態です。「仲間から認められる存在でいたい、親の言うことなんか聞かない自分がある」ことが、本人にとって今は大事なことで、親の望みとは大きくずれます。

そんなときでも、日常生活のちょっとしたところで、子供の良いところが垣間見られることがあったら(例えば、親の知り合いの子供の勉強を親には内緒で見せてあげるとか)、また、あまり話さなかった子供が必死に自分の考えを主張してきたりしたら(例えば、友達と取り組んでいることを夜中の時間を使ってやり上げたいと主張するとか)、ある程度彼らの考えや行動を観察しながらも、子供は「違う自分になりたい」と必死になっているのですから、「今までの自分とは違うものになりたい」という気持ちを大切にしていってあげてはどうでしょう？ 大切にするとは、見守るということです。

キャラ替えに励み、大人に秘密を持ち、仲間とともに自分たちの力だけで文化祭を盛り上げるとか、スポーツや文化系の大会に出場するとか、バンド活動をするとか、映画に出てくるような話も実際にはあるのです。大きな仕事を終えた後、すぐには勉強には取り掛からなくても、そのような大仕事をやり遂げた彼らは、自分の将来も考えています。

そのように高校生活を過ごして挑戦した大学受験で、親は一浪覚悟で迎えた春に、大学に見事合格した青年もいました。

このように自分の考えを持ち行動する子供たちは、また、別のステージで試行錯誤を始めることでしょう。試行錯誤するということは、社会に出てから、凄く役立つことなのです。人に言われたことしかできない、いわ

ゆる指示待ちの若者が増えているといわれている現代ですが、親にはよく分からないことだけれど、なんだか一生懸命やっている彼らのことを大切にしたいと、私たちは思います。

ただ、やっていることが、親の喜ぶようなことではないことが多いのが、困りものです。彼らがそんなふうに一生涯懸命取り組んでいることを親に詳しく教えてくれれば、親だってもう少し安心して見ていられるんですけどね。

子供は親に秘密を持つことで大人への道を歩むものです。これを読んでいるあなたにも覚えはありませんか？まして、これからは、私たちの知らない新しい時代がやってくるのですから。だからキャラ替えも長い目で見て、その時だけの見た目ではなく、子供が大切にしていることをやっている姿を見守っていきましょう。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」  
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。

